授業

生きた問い

『ねらいとする道徳的価値について、児童の発言や思考の流れから、その理解を更に広げたり、深めたりしていくための発問』

重点①　発問

目標
児童の発言を一度受けとめ、生きた問いにより、児童の思考を深める

☆問いの分類化
・逆説「～しなくてもいいのでは？」
・仮定「もし～だったら？」
・具体「例えば？」
・比較「違いは？」
・変換「それってどういうこと？」
・矛盾「～じゃなかったの？」
・理由「なぜ？」「どうして？」

重点②　話し合い活動

目標　効果的な（広がり、深まりのある）話し合いにする

☆意図的、効果的な話し合い
　・形態(ペア、グループ、フリー)
　・進行(全員が話す、質問をする、GT を交える)
☆受信者、発信者の視点（意識付け）
　㊐比較、分類、拡張、深化
　㊗相手意識をもった話し方
☆発問の再確認、支援の問い
☆意図的なグループ構成

重点③　再構築（見つめなおし）

目標　児童一人一人が自らの生き方を振り返る

☆意識調査（アンケート）、授業始めの考え
　　→授業後の再構築、振り返りの視点
☆振り返りの視点（掲示物）
☆構造的な板書（見える化）

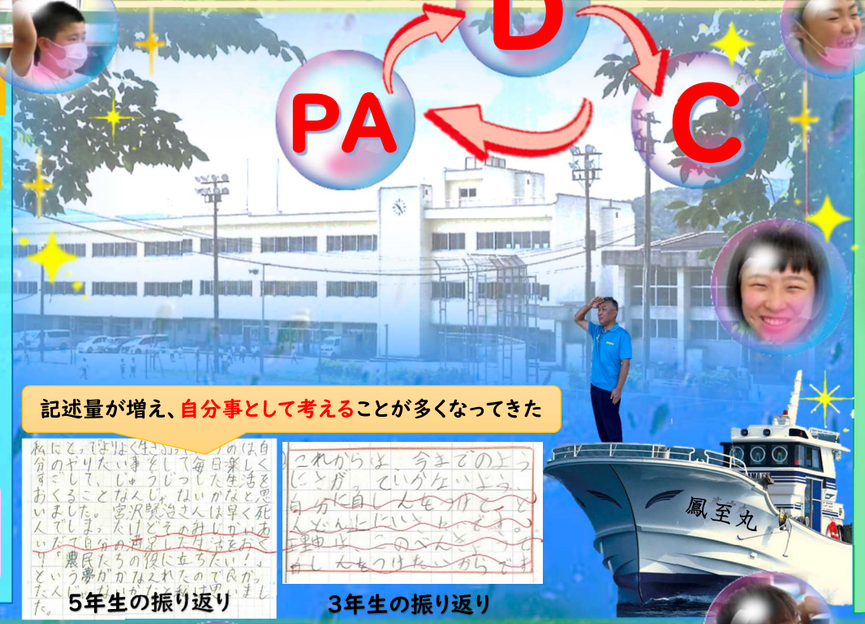
振り返り　キーワード

テーマ　経験　友だち　生き方
今までは　これからは
これからも　自分だったら
大切だと思ったことは
○○さんの話を聞いて
はじめは○○と思っていたけど

校内研修（指導案検討、模擬授業価値理解研修）

重点内容項目の設定　**年間指導計画、別葉の見直し**

学校の重点項目、各学年の重点目標について、学習指導要領解説を熟読しグループ毎で話し合うことで、自分の価値観を広げたり、深めたりする。



記述量が増え、自分事として考えることが多くなってきた

5年生の振り返り

3年生の振り返り

板書掲示

・教師が自己の板書を振り返り、次時からの実践に生かす。
・児童がこれまでの学習を想起し、全教育課程へのつながりを意識させる。

主題名	困っている友だち	
教材名	今、いちばん苦しんでいるのは… 【みんなで考える道徳】 B 相互理解、寛容	
ねらい	相手の立場に立って考え、自分と異なった立場や相手の通ちなどに対しても広い心で受けとめることができる態度を育てる。	
真くテーマ	「認め合う」とはどういうことか？	
基本発問	実際の発問：友幸君の気持ちが変化したのは、なぜかな？	
	児童の様子：先生の言葉　みんなが認めてくれた	
	工夫点：友幸の変化から考えることで、周りの認め合いや理解に繋げていけるようにした。	
中心発問	実際の発問：周りの人たちが友幸君を受け入れることができたのはなぜか？	
	児童の様子：先生の言葉　友幸のことを知った、理解した、認めた、考えた	
	工夫点：周りの人、友幸、双方の変化が認め合いに繋がったことを理解させるようにした。	
補助発問（生きた問い）	実際の発問：相手の気持ちを読むことはできない。どうやったら相手の気持ちを考えられるのかな？	効果　○
	実際の発問：相手の気持ちを受け入れるってどういうこと？	効果　×
	実際の発問：相手の立場に立つって、どういうこと？	効果　△
授業全体を通して	本時は、ゲストティーチャーを用いての授業であった。「相手の気持ちを考える」ということの具体的なやなどを考えることで、「認め」に繋げるようにした。ゲストティーチャーの説話は、本時にピッタリだったため、より理解が深まったと感じる。	

発問自己評価シート

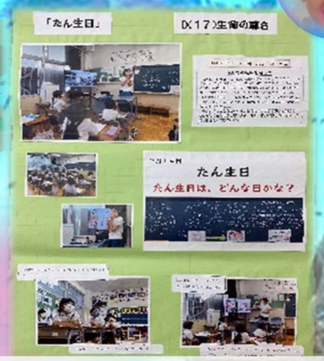
・発問分析
・「効果的な生きた問いであったか」の検証。
・毎時間記入し、週案に綴ることで、意識化、見える化。

基盤

環境づくり

ありがとうの苗の掲示

児童の輝く姿を可視化する写真の掲示



ゲストティーチャーを活用した授業の振り返りの掲示

心づくり

交通安全教室（規則尊重・生命尊重）

市民祭りへの参加（郷土愛）

こころの授業（人間理解・他者理解）

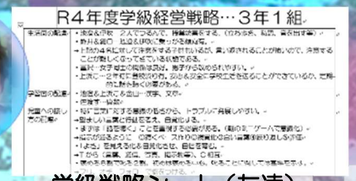
ゲストティーチャーの活用（価値理解）

つながりづくり

道徳授業参観（家族）

親子歯磨き教室（家族）

学年目標の発表（他学年）



学級戦略シート（友達）

三夜踊り練習（地域）